

### 1. はじめに

2005年度の放射線検査室スタッフは、放射線技師4名（10月は3名）であった。

主な診療業務は一般撮影、CT、MRI、透視造影、骨密度測定、また新たにマンモグラフィーを導入し、さらに11月から宇城市が行うMRI脳検診の受診者の受け入れを開始した。

2005年度は人事異動があり人材育成にも力を注いだ1年であった。そのため室内の診療体制を整えるのが困難に思われたが、診療に支障をきたすことなく業務を遂行することができた。

### 2. マンモグラフィー導入

地域医療に貢献するため乳腺外来が開設され、それに伴い6月にマンモグラフィーを導入した。周辺医療機関にもマンモ装置を整備しているところは少なく、地域でも待望の乳腺専門外来ということになった。

現在乳がんは日本女性の罹患率で第1位の悪性腫瘍であり、マンモグラフィーは乳がんの早期発見に有用であると言われている。当然の事ながら正確な診断のためには、撮影技術、読影力、機器の精度管理などが必要不可欠であるため、できるだけ多くの研修会に出席し、知識や技術の習得に努めた。

今後は、マンモグラフィー撮影放射線技師認定の取得が第一の課題となる。また将来的には検診マンモグラフィー画像認定施設を目標に、さらなる自己研鑽が必要と思われる。

2005年度のマンモグラフィー撮影件数は60件であった。

### 3. MRI脳検診受け入れ

宇城市MRI脳検診の実施に伴い、2005年度は当院で5ヵ月間に約800名の受診者を受け入れることとなった。そこですべての受診者が安全かつ精度の高い検査を受けてもらうために、検査前のチェックリストを作成し、問診票と合わせて二重のチェックを行い事故防止に役立てた。また脳検診用に撮像プロトコルの見直しを行い診断能力の高い画像を提供することを心がけたことにより、問題なく検診業務を遂行することができた。

2006年度も引き続き検診を受け入れ、機器の有効利用に役立てていきたいと思う。

### 4. 人材育成

人材育成、能力向上のため2005年度も定期的に室内勉強会を開催した。また院外の研修会等へも積極的に参加し知識や技術の習得に励んだ。

また循環器、検査室、放射線検査室の3科合同で循環器症例検討会を10回開催した。症例の検討を通して循環器疾患に対する知識の習得や、読影力の向上に役立っている。

回を重ねるごとに参加者も増えており、今後はさらに内容の充実を図っていききたいと思う。

### 5. その他

遠隔画像診断は済生会熊本病院画像診断センターの強力なバックアップもあり順調に行うことが出来た。しかし2005年度を最後に熊本病院からの放射線技師の派遣が終了した。熊本病院画像診断センターとの連携は、今後も放射線検査室を運用する上で重要であり、特に教育、能力向上の面で積極的に関わっていききたいと思う。

2006年度からは放射線検査室の独自性を打ち出せるよう、少人数ではあるがスタッフ一丸となって努力していききたい。